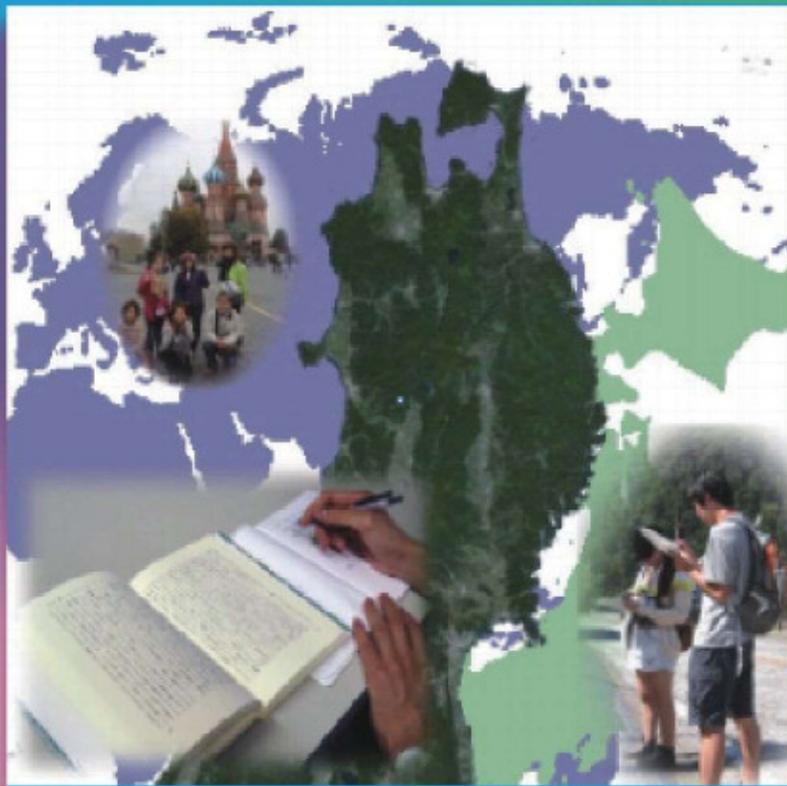


地域を見つめる

地域から考える



教育文化学部

地域文化学科

Department of Regional Studies and Humanities

地域文化学科とは？

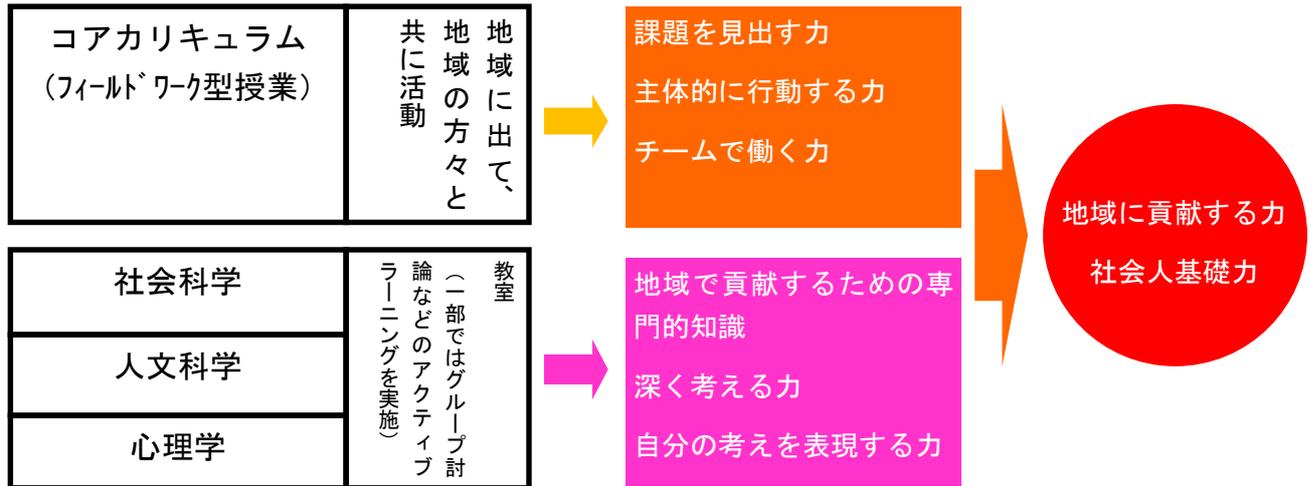
教育文化学部の再編によって、2014年に新しく誕生した学科です。

社会科学や人文科学、心理学などの素養をもって、地域社会に貢献する人材を養成します。

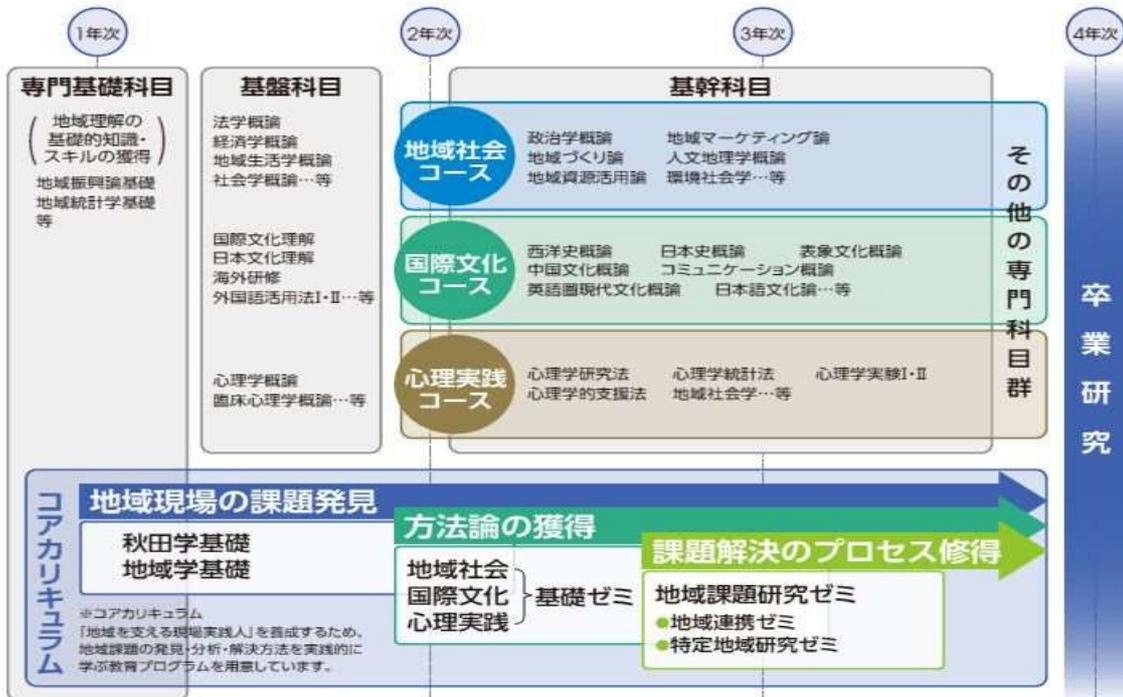
ここでいう地域とは、秋田という特定の地域だけを指すものではありません。

日本における東北や関東地方、世界におけるアジア、ヨーロッパという様々なレベルの地域を意味しています。

教室における社会科学や人文科学の学習に加え、地域に出て活動するフィールドワーク型の授業も展開し、自主性、協調性など地域に貢献する力を育てます。



カリキュラムについて



- ・まず、地域の社会・文化を知るために幅広い分野の基礎知識を身につけます。
- ・次に「地域社会コース」、「国際文化コース」、「心理実践コース」のどれかを選択し(コース選択は、原則学生の希望のとおりになります)、徐々に専門性を高める授業を履修していきます。
- ・専門性の高まりに伴い、コアカリキュラムの内容も高度なものになっていきます。
- ・これらで得た力を使い、卒業研究を行います。

専門科目一覧

目録編課程科目	秋田学基礎
	地域学基礎
	地域振興論基礎
	地域統計学基礎A・B

目録編課程科目	法学概論
	経済学概論
	社会学概論
	国際文化理解
	日本文化理解
	海外研修
	英語活用法Ⅰ・Ⅱ
	ドイツ語活用法Ⅰ・Ⅱ
	フランス語活用法Ⅰ・Ⅱ
	ロシア語活用法Ⅰ・Ⅱ
	中国語活用法Ⅰ・Ⅱ
	朝鮮語活用法Ⅰ・Ⅱ
	心理学概論
	臨床心理学概論
	情報科学概論
	メディアリテラシー
	プレゼンテーション技法A・B
実践キャリア開発	

地域文化学科発展科目

地域社会コース基礎科目	地域社会基礎ゼミ	ビジネス&マネジメント	社会調査論
	地域統計技法		地域づくり論
	ガバナンス		住居学
	公法Ⅰ		住環境科学(住環境と健康)
	民法Ⅰ		地域食品健康論
	環境法		健康栄養学
	政治学概論		地誌学概論
	行政学Ⅰ		自然地理学概論
	地方自治論		人文地理学概論
	ミクロ経済学概論		生態学概論
マクロ経済学概論	自然環境論		
国際経済論			
公共政策学概論			

国際文化コース基礎科目	国際文化基礎ゼミ	表象文化	コミュニケーション文化		
	歴史文化			表象文化概論	コミュニケーション概論
	西洋史概論			映像文化概論Ⅰ・Ⅱ	言語文化概論
	西洋国家史論			美術概論	文化人類学概論
	東洋史概論			ロシア文化概論	英語圏現代文化概論
	東洋史Ⅰ・Ⅱ			中国文化概論	思想史概論
	日本史概論			中国社会文化論Ⅰ・Ⅱ	現代思想概論
	交通文化史論			日本文学概論	日本語学概論
	地域文化概論			古典文学概論	日本語文化論
				日本文化論	

心理実践コース基礎科目	心理実践基礎ゼミ	心理学実験Ⅰ(アセスメント)	心理学的支援法
	心理実践	心理学実験Ⅱ(実験・調査)	地域社会学
	心理学研究法	感情・人格心理学	現代社会論
	心理学統計法	社会・集団・家族心理学	社会調査論

地域社会コース	ガバナンス	プログラミング入門A	国際文化コース	多文化共生論Ⅰ・Ⅱ				
		プログラミング入門演習A			外国語発展演習	現代思想演習Ⅰ・Ⅱ		
		マルチメディア技法				外国語発展演習ⅠA・B・C・D・E	比較地域社会論	
		ビジネス情報処理				外国語発展演習ⅡA・B・C・D・E	比較民俗文化論	
		コミュニティ				外国語発展演習ⅢA・B・C・D・E	言語文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
		日本地誌				外国語発展演習ⅣA・B・C・D・E	日本語学Ⅰ・Ⅱ	
		世界地誌				歴史文化	日本語学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
		文化地理学				西洋史文献講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		
		水文学Ⅰ(水循環論)				西洋史演習Ⅰ・Ⅱ	心理実践コース	
		水文学Ⅱ(水環境論)				アジア歴史文化論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	心理実践	
		子どもの食と栄養				日韓・日朝関係史Ⅰ・Ⅱ		知覚・認知心理学
		栄養生化学特論				日本史実習Ⅰ・Ⅱ		教授・学習の心理学(学習・言語心理学)Ⅰ・Ⅱ
		住環境科学Ⅱ				日本史演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		神経・生理心理学
		家庭電気・機械				地域文化論演習		知的障害児の心理学(障害者・障害児心理学)
		社会学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				表象文化		教育臨床概論(健康・医療心理学)Ⅱ
		社会調査実習				表象文化論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		福祉心理学
		社会学外国書講読				映像文化論		生徒の理解と指導(教育・学校心理学)
		地理学演習				美術文化論Ⅰ・Ⅱ		司法・犯罪心理学
		健康栄養学実験・演習				美術演習		産業・組織心理学
		住生活調査・演習Ⅰ(冬季・室内環境)				欧米文化研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		人体の構造と機能及び疾病
		住生活調査・演習Ⅱ(夏季・地域環境)				中国社会文化論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		精神疾患とその治療
地理学基礎実習Ⅰ・Ⅱ	日本文学論Ⅰ・Ⅱ(古典文学)	心理演習(面接ロールプレイの実際)						
地理学フィールドワーク実習Ⅰ(人文・地誌)	日本文学論Ⅲ・Ⅳ(近代文学)	心理実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)						
地理学フィールドワーク実習Ⅱ(自然)	日本文学論演習Ⅰ・Ⅱ(古典文学)	心理実習Ⅴ(医療)						
生態学演習	日本文学論演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ(近代文学)	福祉社会学(関係行政論)						
生態学野外実習	コミュニケーション文化	社会学演習Ⅲ						
環境の測定と分析	言語コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ	社会調査実習						
地域情報処理	文化コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ	心理学研究法演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ						
	比較文化論Ⅰ・Ⅱ							

地域課題研究ゼミ	卒業研究プレゼミア・B・C	卒業研究
地域連携ゼミ	特定地域研究ゼミ	心理実習Ⅳ(福祉)

入試について

- ・ 推薦Ⅰ（大学入試センター試験を課さない） 25人（うち地域連携・国際交流枠*5人程度）
- ・ 前期日程 60人
- ・ 後期日程 15人

*）地域連携・国際交流枠

地域連携・国際交流枠とは、主体的・継続的に地域の方々と連携した活動または国際交流活動を行っている人を受け入れる募集枠です。

地域連携活動とは、地域社会の人々との協働という要素を含む活動を意味します。想定される具体例のいくつかを挙げます。

○地域の人々と協働して祭の企画・運営・実行などの活動に参加している。

○地域ボランティアとして継続的に施設訪問などを行っている。

○地域のスポーツ団体等で活動やその補助を行っている。

以上のような活動を1年以上行っていることを必要とします。

国際交流活動としては以下のものが想定されます。

○海外研修や留学生の受け入れを体験し、その後も継続的に交流活動を続けている。

○団体等において定期的に外国人との交流活動を行っている。

ただし、学校での授業および部活動のみの活動や、地域の方々と協働性あるいは外国人との交流性が低い活動は、この枠に該当しません。

また、高校時代と異なる活動になっても構いませんが、大学入学後も地域との連携活動あるいは国際交流活動を継続することが条件となっています（入学後も、毎年活動報告書を提出していただきます）。

地域貢献入学者の活動について

本学科では推薦入試の一つとして地域貢献枠を設け、地域貢献活動を継続的にしている学生を積極的に受け入れてきました。平成30年度からは、あらたに国際交流活動も加えて地域連携・国際交流枠としています。従来の地域貢献枠の入学者は現在次のような地域貢献活動を行っています。

○地元のお祭りに参加したり、観光客などへお祭りの紹介をお手伝いしました。また、後輩たちの指導も行いました。

・ 竿灯（差し手） ・ 角館のお祭りやイベント、老人ホームへの慰問（御囃子、手踊り） ・ 八沢木獅子舞（演じ手）

・ 横手市増田の盆踊りや民俗芸能フェスティバル、秋田盆踊りサミット等（踊り手） ・ 鬼剣舞（後輩の指導）

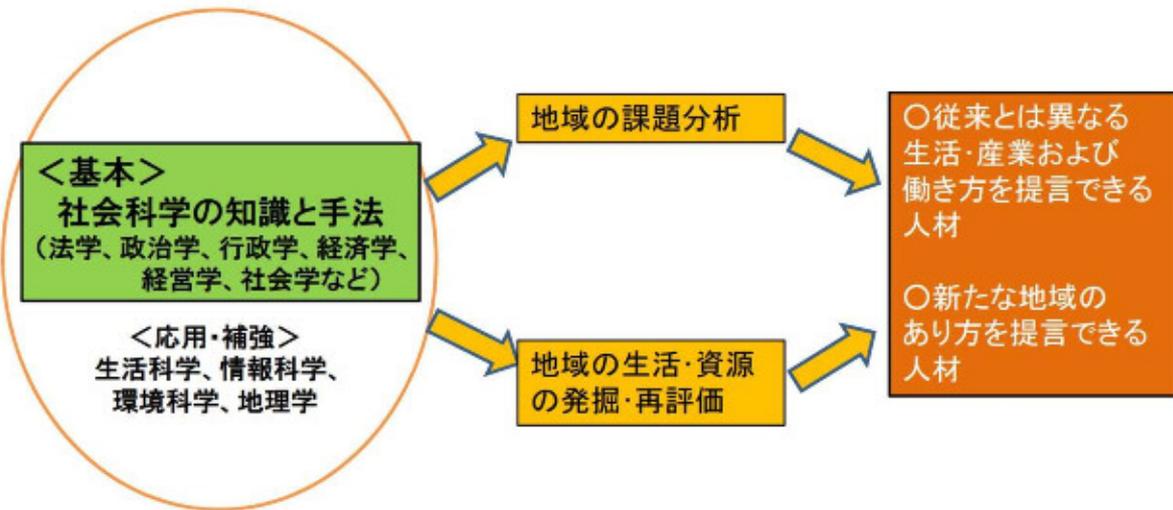
○岩手国体のイベントにボランティアで参加し、イベントの準備をおこないました。

○地元の水球クラブで小学生等を対象にした指導を行いました。

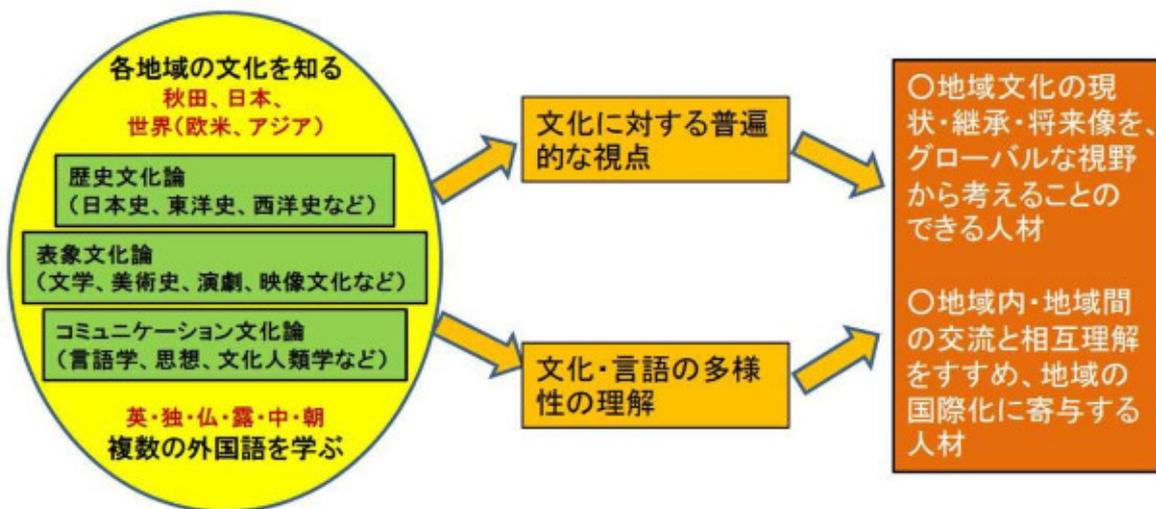
○大学の組織である学生サポーターに入り、障がいのある方の立場から危険個所のピックアップや施設の改善等の提言、避難ルートの確認や訓練などを行いました。

コースの人材養成について

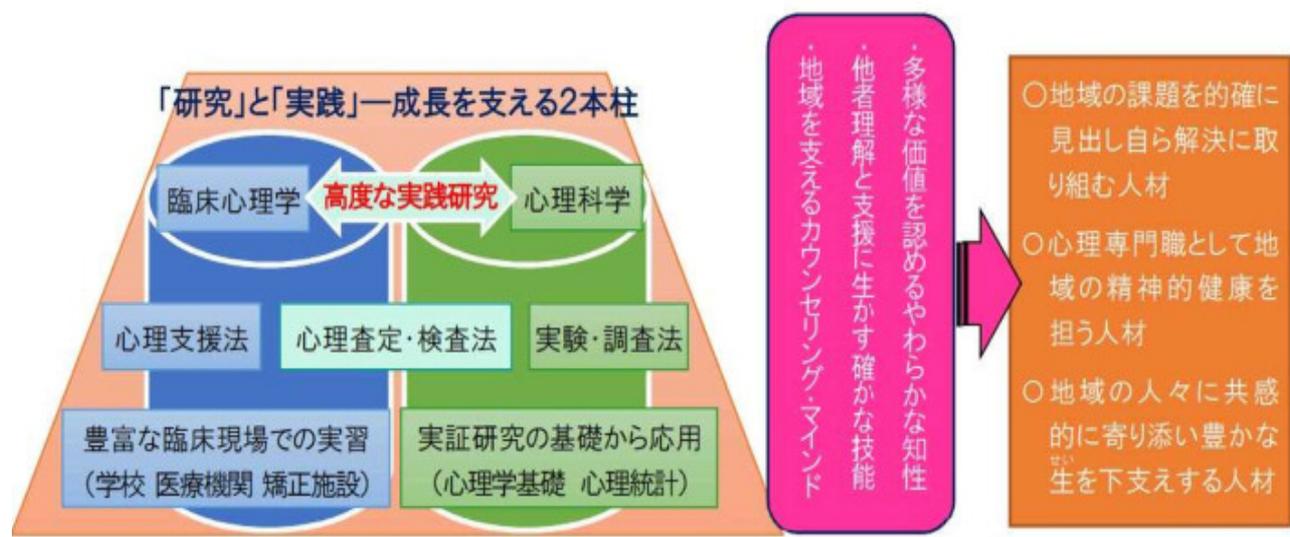
地域社会コース



国際文化コース



心理実践コース



先輩たちは今

今年3月末には1期生が卒業しました。企業の採用意欲はもちろんですが、先輩たちの努力と教員のサポートで就職率は100%を達成しました。

地域を知り、地域に出て活動を行うコアカリキュラムの科目の中で、地域連携プロジェクトゼミ（皆さんの場合は地域連携ゼミとなります）は、先輩の就職に特に役立ったようです。その本年度の活動状況を紹介いたします。

○地域連携（プロジェクト）ゼミ（3年生）

企業や公共機関、地域住民などと一緒に協働するプロジェクトの中でコミュニケーション力や主体性などの社会で働くために必要な力（社会人基礎力）を養成するフィールドワーク型の授業です。本年度は下記のようなプロジェクトが企画され、現在33人の先輩たちが頑張っています。

連携先	所在地	実施中のプロジェクトの内容
株式会社 マルシメ	横手市	7月28, 29日に行われる「夏の大感謝祭」で自分たちの企画を実施する活動を行っています。
NTT東日本秋田支	秋田市	秋田市の観光施設に設置されているWIFI等を活用して学生・若者の目線からどんな企画を実施すれば秋田市の魅力を向上できるかの考案。
株式会社エフエム秋田	秋田市	FMラジオ放送に関わる業務を、内側から見て実体験したうえで番組制作にもかかわっていく予定です。
太陽印刷株式会社	秋田市	地域魅力発信ガイドブック「あきじん」の横手版を作成するために活動しています。
有限会社 たかえん	横手市	生産者の方などのインタビューをもとに、お店のニュースレター「紅玉新聞」を制作しています。
有限会社 都市クリエイティブ	秋田市	昨年度のプロジェクトゼミで実施した由利高原鉄道沿線の沿線の観光ツアーのさらなる改善を目指して活動を行っています。
有限会社 めまくら (ICHINOSAI)	湯沢市	オープンキャンパスの際に着用するユニフォームを企画しています。このオープンキャンパスで学生が着用しているものは、このプロジェクトで企画したものです。
株式会社 See Visions	秋田市	空き家や空き店舗の実情を調査して、その活用法について考えていく活動をしています。
株式会社 オフィスレイ	田沢湖町	介護施設を運営する自社について、地域住民に理解してもらい、地域とのつながりを強めるイベントを企画、実施する活動を行っています。
株式会社 むつみワールド	秋田市	アパートにかかる光熱費をアンケート調査し、お客様向けの『わかりやすい光熱費節約物件のポイント』を作成する活動を行っています。
株式会社 わらび座・エコニコ農園	仙北市	ブルーベリー観光農園への来場者増加に向けて、チラシ等を活用した秋田市内コミセンや小中学校への宣伝活動をおこなっています。
株式会社 わらび座・田沢湖ビール	仙北市	ビールの製造工程見学や販売活動体験等を通じて、田沢湖ビールの“良さ”を見つけ、販売会などでの情報発信などを通じ需要増加につなげる活動をしています。
一般社団法人 湯沢市観光物産協会	湯沢市	約300年の歴史をもつ「七夕絵どうろうまつり」の企画運営に参加しています。昨年度の活動で提言した改善点を今年度は実現していく活動を行っています。
大仙市子ども・若者総合相談センター (びおら)	大仙市	不登校の子ども、引きこもりの若者が、学校復帰や就職に動き出すための支援をするびおらで、利用者と共に作業する中で、自分に出来る事を見つけていく活動を行っています。
NPO法人 あきたパートナーシップ	秋田市	県内NPO法人を対象に法人運営についてアンケート調査を行い、NPO法人の状況把握を行う活動をしています。
秋田県企画振興部総合政策課 県民読書推進班	秋田市	「ふるさとの文学と読書のつどい2018 in能代の運営補助や若者世代の読書意欲を高める事業を企画立案・運営する活動を行っています。

先輩の皆さんの学科に関する感想や今行っている活動について聞いてみました。

地域社会コース

○地域社会コースでは、(中略)基礎的段階では大学周辺でのフィールドワークが多いのですが、秋田県外で行う授業もあります。その一つが、私が参加した愛媛県宇和島市での野外調査実習です。私達の班では、宇和島市の「九島」という離島で、島と本土を結ぶ橋が新たに建設されたことによる生活の変化を、およそ5日間かけて野外観察と住民への聞き取り結果をふまえて考察する、という調査実習を行いました。住民の「声」が聞けなければ成立しないものであったため、最初は不安でしたが、島の方々は本当に温かく、多くのデータを集めることができました。さらに、海で獲れた魚を捌いてご馳走して頂いたり、船に乗せて頂いたり、多くの貴重な経験をすることもできました。沢山の方々の優しさに触れるうちに、人との出会いをより大切にしたい、という気持ちが強まりました。そして、ほんの少しだけ人間的にも成長したような気がします。

(地域社会コース3年生 菅健太郎さん)
[教育文化学部研究科通信3号(20180606)より引用]

○「経営組織論」は、経営とは何か、組織とは何かということ、あまり知識がない人でも分かるように、丁寧に説明してくれる講義です。毎回挙がった質問についての回答などを、各授業の最初の方に解説してくれるために、いろいろな知識が身につきます。また、その日の授業の内容に合った映画なども紹介してくれます。とても面白いです。

(地域社会コース2年生 若松 圭さん)

○私が受けて良かったと思った講義は「経営組織論」です。この講義では社会の中で集団(いわば組織)で仕事をするときに関わる知識を学ぶことができます。一見お堅いイメージでとっつきにくいと思われそうですが、私たちが生活してきた学校の中での集団行動にも通じるものもあり、イメージがしやすく内容に入り込みやすいです。教えてくださる臼木先生の教え方も分かりやすく、事例に関しては映画を用いて説明して下さるため、時間外学習が楽しく行えます。公務員・企業就職に限らず、あらゆる場面に共通することを取り扱うので、受講することをおすすめします。

(地域社会コース2年生)

国際文化コース

○「やりたいことが決まっていない。」
「やりたいことなんてない。」こんな人は少なくないと思います。でも地域文化学科なら大丈夫です。私が所属している教育文化学部地域文化学科は、一年生のうちは秋田の社会や文化について基礎的なことを中心に学びます。私自身、北海道出身で秋田のことはほぼ何も知りませんでしたが、一年間で秋田についての知識を深めることができました。秋田出身の方でも自分の地元の新しい一面を見つけることができるはずですよ！その他にも、法律、経済、情報、心理、地域学、語学、歴史、文学などなど実に様々な分野について学ぶことができます。その中で自分の興味のあること、将来関わってみたいものを見つけてみてはどうでしょうか！地域文化学科は講義の種類が豊富な分、多くの先生方が所属していますし、様々なことに興味を持った学生が集まっています。たくさん仲間と充実した学生生活を送らしましょう！

(人間文化コース4年生 廣田航君)

○人間文化コースでは、文学、芸術、歴史、思想、言語といった人文科学の分野を、幅広く学ぶことができます。地域文化学科では卒業するまでに、自身の関心に基づいて授業を選択し、必要な単位を履修していきますが、多くの分野を学べるのが特徴です。特に、人間文化コースでは、1つの分野に偏ることなく、多方面からより体系的に学ぶことができます。また、教授たちも、日本はもちろん、様々な国や地域の文化を専門としています。そのため、ローカルな事柄を、グローバルな視点で考えることができます。人間文化コースは、新年度の初めにはコースの学生と教授の懇談会や、オリエンテーションなども行っているため、学生と教授の距離が近く、講義も楽しく受けることができます。コース全学年が合同で使う自習室・勉強ルームも完備されていて、先輩たちとの意見交換や相談も、気軽に行うことができ、大学生活を有意義に送ることができます。文系学部の必要性が問われている昨今ですが、いつの時代も人間の生活は、何かしらの文化と深くかかわっています。あなたの知らない外国や、過去の文化から、これからの私たちの在り方について、この人間文化コースと一緒に考えてみませんか？

(人間文化コース4年生 加藤悠理さん)

(人間文化コースは平成30年度入学者より「国際文化コース」となり、外国語などの授業にいっそう力を入れています)

心理実践コース

○私は現在の心理実践コースに所属しています。自分が興味のある分野について自由に研究することができるため、心理研内でも研究テーマは多種多様でいつも仲間から刺激をもらっています。また心理実践コースは新歓(新入生歓迎会)や追いコン(卒業生追い出しコンパ)など楽しむ機会もあり、やりたいことを学びつつ友達と楽しい学生生活を送りたいあなたにぴったりです！ぜひ心理実践コースで充実した4年間にしましょう！

(地域社会コース心理実践領域 4年生 涌井さくらさん)

○地域文化学科の魅力は多種多様な分野の学問を学ぶことができるところです。私は、心理学を学びたいと考えこの学科を選びましたが、今まで触れたことのない分野を学ぶことは興味の幅を広げることにつながりました。新たな視点を得られるので、まだやりたいことが見つからない人でも、興味を持てることを見つけやすいと思います。

私は地域社会コースの心理実践領域に所属しています。昨年までは主に基礎的な知識を学び、現在はその知識を活かして交通犯罪について心理学的な立場から研究しています。この研究が地域社会に貢献できるようなものになればいいと考えています。

あなたも地域文化学科で新たな視点と興味を得て、地域社会に貢献してみませんか？

(地域社会コース心理実践領域 4年生 奥山千鶴さん)

(地域社会コース心理実践領域は、平成30年度からコースとして独立し、公認心理師の養成プログラムを始めました)

担当教員紹介（地域社会コース）

■ 荒井 壮一（あらい そういち）

専門： 経済学

研究テーマ： ニュー・ケインジアンのマクロ経済学と金融政策

研究内容： マクロ経済学の視点から、インフレーション・ターゲティングや名目金利の下限制約（マイナス金利政策）といった内容を含む金融政策の研究をしています。近年では特に、DSGEあるいはニュー・ケインジアンと呼ばれる理論的枠組みの中で、多様な家計行動（特に異なるタイプの家計およびその人口割合・動学の変化）を考慮することによって、複雑な現実経済をできる限りの確に捉えるためのモデルを構築することに取り組んでいます。

メッセージ： 経済学が扱う「お金」には、個人的な欲望を満たすための手段という側面が確かにあります。しかしながら、感動的な楽曲を産み出すアーティストも、お腹が減っては作曲できません。すなわち、お金では買えない貴いものを支える土台として、お金を介した経済活動がどうしても必要になる。そんな側面もまた確かにあるのだと思います。自分のためではなく、人のため・社会のためだからこそ、敢えてお金にこだわって考えてみる。世の中を楽しくする方法を、一緒に探してみませんか。



■ 池本 敦（いけもと あつし）

専門： 栄養生化学、食環境学（地域食資源の活用）

メッセージ： 秋田に特徴的な食資源を活用する地域貢献活動を行っています。特に健康食品や化粧品、薬の開発につながるような、成分や素材の付加価値を高める研究が専門です。地域フィールドに出て、生産者・企業・自治体と産学官連携活動を実際に行っています。机上の学習だけでなく、リアルなプロジェクトに参加することで、多くの学びが得られますので、一緒に頑張ってくれる学生の皆さんを待望しています。



■ 石沢 真貴（いしざわ まき）

専門： 社会学

研究テーマ： 地域コミュニティと住民参加の変容に関する社会学的研究

研究内容： 少子高齢化、産業構造の変化、グローバル化といった社会変動が地域コミュニティに暮らす人々の社会関係にどのような影響を及ぼしているのか、どのような地域課題に対しどのように取り組もうとしているのか、地域コミュニティの変容プロセスを捉える調査研究をしています。伝統的な文化・産業を再評価する動向に注目し、地域再生にどのように利活用できるかという課題にも関心をもって研究しています。

メッセージ： 複雑で多様な現実社会を捉えるために、社会学は様々な調査方法を用いて研究をします。そのなかで、私たちが暮らしている身近な地域の出来事を題材に、具体的事例を研究することもまた一つの方法です。「足元」の地域コミュニティに関心をもつことから出発し、グローバルな社会全体について想像し考察していくこともできます。現実社会との接点を体感しながら学ぶことは、社会学だけでなく社会現象を研究する社会科学全般の知識を深めていくことにもつながると思います。

■ 和泉 浩（いずみ ひろし）

専門： 社会学

研究テーマ： 都市や芸術（音楽）など社会のさまざまな現象や問題について研究しています。

研究内容： 社会学はさまざまなことについて研究できることが魅力の一つです。これまで、社会学の理論をはじめ、都市、まちなみ・景観、まちづくり、観光、芸術・音楽、教育、メディア、医療、防災・減災、ジェンダーなどについて研究を行ってきました。現在は、それらの研究も組み合わせ、聞くこと、見ることといった感覚と社会の関係について、音楽を中心とした研究などを行っています。「好き」や「良い」「きれい」「すばらしい」と感じるものをなぜそう感じるのか？ そのことを社会や歴史との関係から考えています。

メッセージ： 社会学では社会のさまざまな現象や問題を研究の対象にします。関心のある方はインターネットで「自分の好きなこと」（「好きなもの」「気になっていること」と「社会学」で検索してみてください。学校や進学、部活動、恋愛、はじめなど、あらゆるものを研究する社会学があります。



■ 上田 晴彦（うえだ はるひこ）

専門： 情報科学、科学コミュニケーション

メッセージ： 私はコミュニケーション、特に科学コミュニケーションにICT技術を取り入れることに興味を持っています。具体的にはサイエンスカフェや科学イベント等でインターネット望遠鏡と呼ばれる装置を利用して、コミュニケーションを促進することを主な研究分野にしています。私と一緒に、ICT技術とコミュニケーションについて学んでいきませんか。



■ 植村 円香（うえむら まどか）

専門： 人文地理学、経済地理学

メッセージ： 高校までの地理といえば、国名や地名の暗記科目という印象があるのではないのでしょうか。大学では、地域に生起する様々な問題と向き合い、どのような解決方法があるかを、みなさんと考えることを目標としています。どの地域にもあてはまる万能な政策や答えはありません。一緒に地域について考えましょう。

担当教員紹介（地域社会コース）

■ 臼木 智昭（うすき ともあき）

専門： 経営学

研究テーマ： 公共部門の経営分析

研究内容： 著名な経営学者のドラッカーは「マネジメント（経営学）とは教養である」と言っています。「教養」とは、ものごとを正しく捉えるための基礎的な知識のことです。企業だけでなく、国や地方自治体といった公共部門など、さまざまな組織が抱える問題を、経営学の視点で捉え直し、地域や社会がより良い方向に向かうための方策について研究しています。

メッセージ： 経営学の対象は、企業だけでなく、国や地方自治体、病院、学校など、様々な「組織」です。経営学を学ぶことで、現代の社会が抱える問題を「組織」の視点から見つめなおすことができます。



イベント参加など地域での実習も行います

右) 臼木 准教授、

左) 保坂 特任准教授（地域連携コーディネーター）

■ 小野寺 倫子（おのでら みちこ）

専門： 法学（民法）

研究テーマ： 環境損害の民事救済に関する日本法とフランス法の比較研究

研究内容： 人の活動から自然環境それ自体に発生した損害（環境損害）では、直接の「被害者」は人ではなく、自然（水、大気、動物、植物など）です。では、環境損害について誰かが賠償などを求めて裁判を起こせるでしょうか。石油タンカーの座礁事故によって油まみれにされた海鳥、ゴルフ場開発で住処を奪われたウサギや野鳥などは、残念ながら、自分で裁判所に助けを求めることはできません。しかし、フランスには、環境保護団体などが環境侵害について裁判を提起することができる制度があり、実際に活用されています。日本にも同様の仕組みを導入することができないかどうか、両国の法制度を比較研究しています。

メッセージ： 法学では、「ルール」という側面から、人々と社会にアプローチしていきます。私が担当している「くらしと法」、「法律学概論」、民法の講義・演習科目では、売買、賃貸借などの取引（契約）、交通事故（不法行為）、家族（婚姻、親子など）といった、おもに対等な市民同士の法的関係の考察を通じて、市民社会の基本的なルールについて学びます。「環境法」では、環境保護における法の役割について考えます。法学は大学に入学生はじめて学ぶ領域ですが、高校までの学習内容—社会科だけではありません—や日常生活での身近な経験を総合的に活用することができます。

■ 佐々木 重雄（ささき しげお）

専門： 情報科学（プログラミング言語）

メッセージ： コンピュータやインターネットを便利で快適に使うための手法に取り組んでいます。コンピュータにかかわる産業は、利用者や企業内の要求とコンピュータにできることとの間をとりもち、いかに顧客の潜在的な要望を実現するかを勝負しており、実のところ、かなり人間臭い仕事が多いです。未来の夢を叶えるための腕を磨いていきましょう。

■ 篠原 秀一（しのはら しゅういち）

専門： 水産地理学、地誌学

研究テーマ： 水産物流通・大都市僻遠臨海地誌の地理学研究

研究内容： 生産から加工・流通・消費に至る水産関連地域を、特に漁獲物の水揚げ地である漁港を中心に経済・文化地理学的に現地地域調査を重視して研究しています。地域振興上の資料ともなるように、銚子、境港、焼津、長崎などの大漁港を中心とする水産関連空間研究と、船泊（礼文島）、宗谷（稚内）、薄井（鹿児島県長島町）、伊良部（宮古島）など中小漁港を中心とする地域ブランドや生活文化の考察を含む大都市僻遠臨海地誌を作成し、北欧等海外の地域事例と比較対照しています。

メッセージ： 地域文化学科では社会・人文・自然系の地域研究を幅広くも 奥深くも学べます。具体的な地域調査情報に基づいてその地域の将来を現場に即して考えたい人、おじさんおばさんから話を聞いたり、自分なりの観察も含めて様々な地域について見聞を広めたい人には、その学術的研究の基礎を提供します。私自身は水産地理学・地誌学を主たる専門分野としますが、より一般的な地域研究の立場から、学生達の学習・研究を補助します。

■ 高橋 さち子（たかひ さちこ）

専門： 公共政策学

メッセージ： 公共政策学では公共部門でのリスクや不確実性を伴う環境における意思決定という側面から「身近な問題」を研究対象とします。公共部門でのインターンシップも含めて自分自身で直接問題を見て聞いて行動してください。

■ 中澤 俊輔（なかざわ しゅんすけ）

専門： 政治学（日本政治外交史）

研究テーマ： 災害発生時の警察の警備活動と応急対策

研究内容： 日本で地震や台風などの自然災害が発生した時、警察は被災地の治安確保や人心安定、人命救助のためにどのような活動を行ってきたのか、関東大震災や伊勢湾台風などの大規模災害の経験がその後の警察の警備活動と制度にどのように影響したのかを、歴史的な視点に立って研究しています。また自然災害と並んで、テロや戦争といった非常事態に際して、近代日本の警察がどのように対策を構じたのかについても研究しています。

メッセージ： 人びとが社会を営む上で、政治は重要な役割を果たしています。政治学は、私たちを取り巻く政治のシステムと考え方を分析する学問であり、その対象は人、集団、地域、国家、世界と様々です。私は近現代の日本の政治の歴史を研究しています。歴史は、現在そして未来の政治を考えるヒントを提供してくれます。よろしくお願ひします。



担当教員紹介（地域社会コース）

■ 成田 憲二（なりた けんじ）

専門：植物生態学、環境科学

メッセージ： 私たちには自然について知らない事がたくさんあります。また、現在の地域の諸問題、環境問題にはフィールド研究にしか解決できない事がたくさんあります。秋田の豊かな自然をフィールドに植物を中心に様々な生物の生態とその生息環境について調査を行ない、自然環境の現状やその利用について学びます。特に高山や河川などの自然環境での活動に必要なノウハウをはじめとし、野外でどのように測定・調査し得られたデータをどのように分析するかといったことを基礎から学ぶ事ができます。

■ 西川 竜二（にしかわ りょうじ）

専門：建築環境学、住生活学

研究テーマ： 健康・快適で持続可能な居住環境とライフスタイル

研究内容： 建築学（特に建築環境）の専門から、持続可能で暮らしやすい建築・都市環境とライフスタイルを研究しています。現在は、冬に住宅でのヒートショック（建物内の室温温度差による血圧上昇等）で脳血管疾患等を発症してしまう高齢者が非常に多いことから、住宅の実測調査や、統計資料から県・市町村で住環境が健康に与える影響を分析するなどして実態把握と改善提案の研究を継続しています。また、まちの景観やにぎわいに関する研究なども行っています。

メッセージ： 現代人は人生の8割を都市の建物内の環境で過ごし、その空間・環境が居住者の健康・居心地・仕事・学習の効率やコミュニケーションなどの私達の暮らしの豊かさに影響しています。また、建築分野は産業や社会の構造と結びついています。授業では、自然環境や社会環境と共生する持続可能な住居やライフスタイル、空き家等の住宅問題の解決に向けた住宅政策や民間の取り組み、シェア・コレクティブなど新しい住まい方なども学びます。調査・実習を通じて学び、それを地域の企業・行政サービスに活かしたい人を待っています。



エコハウス事業の視察（北海道下川町）

■ 萩原 史朗（はぎはら しろう）

専門：経済学

メッセージ： 企業組織や政府組織の経済分析を専門にしています。特に、最近では、今後、ますますグローバル化が進み、市場における競争が激しくなる中で、持続可能な社会を構築するためには、どのような企業組織や政府組織の制度設計が必要となるかについて関心を持っており、グローバル競争がますます激しくなる中で、どのようにすればそれぞれの地方の良さを生かしながら「よりよい社会」を構築できるのでしょうか？これはとても難しい問題ですが、今後、日本の数多くの地域が乗り越えていかなければならない課題でもあります。私の担当科目はどちらかというと理論的な科目が多いですが、講義や講義外の活動を通して、学生の皆さんとこうした問題を共に考えていきたいと思っております。共に、楽しく、かつ真剣に学び、様々な経済問題や社会問題への解決策を考えていきましょう！

■ 林 武司（はやし たけし）

専門：水文学・自然地理学

研究テーマ： 地域の水環境・水資源の保全と活用

研究内容： 水は、地球上の地形や気候、火山活動などの様々な自然環境や自然現象と深くかかわる因子であり、また人類や多くの生き物にとって不可欠な資源でもあります。私は、国内外の様々な地域を対象として、水の循環のしくみ（地表水・地下水の起源や流れ方など）や水質組成などの水環境の特徴や、水環境への人間活動の量的・質的影響（水量の減少や汚染など）を調査によって明らかにし、水環境の保全や持続的な活用のための適切な方策を検討しています。

メッセージ： 文系・理系という括りにとらわれず、双方を含む総合知を養い、地域と世界のつながりを考えられる力を磨いて下さい。例えば水文学が扱う“水”に着目すると、水を介して、自然環境の特徴だけでなく文化や経済など社会の様々な側面を地域～グローバルスケールで理解することができます。また自然地理学では、地球の諸環境と人間活動との相互作用を理解することで、環境問題や資源・エネルギー問題などについて考え、行動できる能力（環境リテラシー）を養うことができます。

■ 林 良雄（はやし よしお）

専門：情報科学

研究テーマ： 情報技術の教育、人文科学への応用

研究内容： 教育の分野では情報モラルに十分注意を払いながら、情報技術を取り入れると、従来にならぬ新しい教育ができるようになります。また、人文科学では、例えば方言研究でデータベースを作り、研究者間での情報共有をしたり、地理情報システム（GIS）で地理的な分布をわかりやすく表示したり、分析することができるようになります。私は情報技術をこのような分野にどのように応用すればより効果的かを研究しています。

メッセージ： ICT技術はあらゆるところで利用されています。教育現場や社会科学、人文科学という文系と呼ばれる領域でも例外ではありません。私は、このICT技術を主に教育と人文科学で応用することを中心に研究を行っています。特に、学校現場のICT化と地域の文化遺産を、画像データを含めてデータベース化することに興味を持っています。コンピュータ関係の授業を担当していますが、コンピュータと聞くとすぐに拒否反応を示す方は少なくありません。そのような方でも親しみの持てる授業を展開するつもりですので、宜しくお願いします。



秋田の方言分布

■ 保坂 正智（ほさか まさと）

専門：地域連携コーディネーター

研究テーマ： 県内地公体、団体、企業の秋田大学に対するニーズ

研究内容： 出身母体である銀行での経験を元に、学生に“働くこと”の仕組みや意義を理解させるに寄与する県内実習先を開拓し、地域で活躍する人材を育成・輩出する。

メッセージ： 秋田県内には、各地に特色のある企業があります。自身は、銀行員生活を通じて県内の広い範囲でそういった特色のある企業に出会いましたが、その地に赴かなければ巡り会う機会にも、なかなか恵まれないことと思います。地域文化学科の地域連携プロジェクトゼミでは、企業や団体等が直面している様々な課題等に学生自らが関与できるような実習を通じて、課題をクリアしていく方法等を学び体験することによって、地域に役立つ人材を育てていくことを目指しております。

担当教員紹介（地域社会コース）

■ 棟久 敬（むねひさ たかし）

専門： 法学（憲法）

メッセージ： 憲法を専門に研究しています。憲法は小学校や中学校でも習うので、なじみのある分野かもしれません。しかし、大学では「立憲主義」というあまり聞きなれない理念を理解することが学習の前提となります。憲法は自分には関係ないと思うかもしれませんが、日々の政治（投票するだけでなく政治問題について考え意見を表明することなど）や学生の皆さんの日常生活（大学で教育を受ける、アルバイトをする、SNSを利用するなど）にも深くかかわっています。地方自治法や行政法も、立憲主義とは無縁ではありません。こうした問題について、一緒にじっくり考えてみましょう。

担当教員紹介（国際文化コース）

● 内田 昌功（うちだ まさのり）

専門： 中国史

研究テーマ： 紀元前3世紀～10世紀の中国の都市と国家

研究内容： 都市を題材として中国の歴史について研究しています。都市の形態は、時代や地域によって大きく変わります。それは都市の構造に、その時代の特徴や地域の文化、また住んでいる人々の考え方が反映されるからです。文献資料や考古学の成果を使用し、かつての都市の姿をできる限り復元した上で、そこから社会や文化、政治の状況などを読みとり、背後にある時代の特徴について考えています。

メッセージ： 中国は日本にとって歴史的に深い関係があるだけでなく、現代においても、政治的・経済的に最も重要な国の一つです。大学では、中国の歴史や社会・文化、また言語について学びながら、これからの日本と中国の関係、さらにはアジアについても考えてほしいと思います。



西安（かつての長安）の路地。イスラームを信仰する回族のパン屋。西安には昔から様々な民族が暮らしてきました。

● 大西 洋一（おおにし よういち）

専門： イギリス文学・文化

研究テーマ： 王政復古期以降のイギリス演劇

研究内容： イギリス演劇を社会背景との関係から考察することが中心テーマであり、最近では特に、イギリス国内における「南北間格差」と呼ばれる社会的・文化的差異に焦点を当てながら演劇研究を進めています。とりわけ、「北イングランド」と呼ばれる地方の特色ある演劇伝統を、地域の基幹産業（たとえば炭坑業）と労働者階級および地域コミュニティの表象の変化を通じて検討することにより、現代英国演劇を多角的に捉えようと試みています。

メッセージ： 授業では、イギリスの社会と文化の理解を目指し、英語のテキストや様々な表象文化を読み解いています。扱うテーマは、イギリスにおける多文化、階級、地域間格差など様々ですが、常に私の専門である演劇との関連を考えながら授業を展開しています。イギリスでは演劇文化がしっかりと街に根付き、歴史と文化と社会の様々な側面が劇場で演じられ、そして何よりも人々が大いに演劇を楽しんでいます。イギリス文化の「柱」であり、イギリス社会を見渡すための重要な「窓」である演劇を通じて、一緒にイギリスを学びましょう。



人気ミュージカルBilly Elliotが上演された劇場

● 大橋 純一（おおはし じゅんいち）

専門： 日本語学

研究テーマ： 日本語方言の諸相とその動態に関する研究

研究内容： 私の研究テーマは、日本語がたどってきた変容の歴史を方言に残る古語の実態を通して明らかにすることです。そのために、地域や人を幅広く対象に据えて実地調査を行います。また、発音の微妙な訛りなどは機械分析にかけてその特徴を客観的に把握したりもします。方言研究は、基本的には地域言語の“今”を見つめる学問ですが、同時にその“過去”や“歴史”を探る営みでもあります。この研究の面白さ、そして意義深さは、まさにその点にあるといえます。

メッセージ： 日本語学の課題のひとつは、言葉の仕組みや働き、変容の歴史、それが生じる背景的な事情等を明らかにすることです。「青い」に対して「緑い」、「3時（さんじ）」に対して「4時（よんじ）」が言えないのは何故なのか……。普段、あまり気に留めない日常の言葉も、改めて見つめ直してみると、意外な難題、思いもよらない盲点につき当たって困惑するものです。日本語学分野の学習を通して、それらを追究することの意義や面白さは是非体感してもらいたいと思っています。



方言調査のひとつコマ

担当教員紹介（国際文化コース）

● 佐々木 千佳（ささき ちか）

専門： 美学・美術史（イタリア美術史）

メッセージ： 専門は美学・西洋美術史ととくにイタリアルネサンス期のヴェネツィア絵画史を研究しています。美術史を勉強する面白さは、作品を美的対象として鑑賞することはもちろんのこと、それが制作された環境でほんらい担っていた機能や役割を、当時の社会や美術家たちの意識、思想等と結びつけて読み解いていくことも醍醐味のひとつです。私自身高校生の頃から歴史の勉強が好きだったので、作品を生む都市の成り立ちにも自然に関心が向いたのかもしれませんが。美術の歴史や美術理論など、興味を持つのは古いものでも新しいものでも構わないので自分の関心の芽生えを大切に、古今東西の芸術に多方面からアプローチしてみましょ



● 佐藤 猛（さとう たけし）

専門： ヨーロッパ中世史
（とくに中世後期のフランス王国史）

研究テーマ： 中世後期フランス王国の中央-地方関係の研究

研究内容： 「中世」が終わる頃のフランス各地では、英との百年戦争の下、諸侯と呼ばれる地方君主が支配権を強化し、王国の外にも領地を拡げていました。諸侯あるいは諸侯国と王権との関係の考察を通じて、様々な地域がいかんしてフランス王の下に統合されようとしていたかの解明を目指しています。具体的には、仏中西部に本拠地をもつアンジュー公家を取り上げ、かれらが地元伝統と王の統制のはざま、いかに公国を治めたかを検討しています。（写真は、15世紀後半のアンジュー公ルネの銅像とその拠点であるアンジェ城、2014年撮影）

メッセージ： 中世ヨーロッパの国々における王と大貴族、中央権力と地方社会の関係から浮かび上がる国家のあり方を学ぶことは、日本やその多様な地域文化を見直すきっかけになるかもしれません。



● 高村 竜平（たかむら りょうへい）

専門： 文化人類学・朝鮮近現代史

研究テーマ： 朝鮮半島の文化と近現代史

研究内容： 日本の農村研究から出発し、韓国特に済州島の文化・社会・歴史を研究しています。中心的な研究対象は墓をめぐる社会の動きです。墓は、死者の象徴でありながら、同時に不動産という「モノ」でもあり、宗教的な「ものの考え方」と、土地利用という経済・社会的な現象の両方に関わっている点がおもしろいところです。また国土の中心部と周辺部の関係にも関心があり、その一環として秋田の近現代史の研究も始めています。

メッセージ： 韓国や朝鮮に関して現在の日本では、政治的なできごとばかりがニュースになる一方で、歌謡曲・ドラマなどが関心を集めています。しかし、私は、普通の人びとの日常生活から韓国・朝鮮を考えることで、それまでとは異なった見方ができるはずと考えています。もちろん、そのもっともよい方法は実際に住んでみることで、つまり留学です。せっかくの大学生活の間に、一度は外に出てみませんか。



韓国研修中のひとこま（全州市にて）

● 辻野 稔哉（つじの としや）

専門： フランス文学・文化、映画論

研究テーマ： フランスの詩人アポリネールの芸術観と諸作品についての研究、映画における表現方法の変遷

研究内容： 20世紀初頭に活躍した詩人アポリネールの作品研究をメインに、言語や映像（映画）による表現の問題について考察しています。

メッセージ： 主に19、20世紀のフランス文学・文化についての授業を行っています。また、映画という国境を越えて流通するメディアを多角的に捉え、その歴史と現状、そして未来について授業で考えていきます。高校生のみなさん、国際文化コースで一緒にたくさん勉強しましょう！



2017年2月26日に閉館した「シネマパレ」最終上映終了後

● 中尾 信一（なかお しんいち）

専門： アメリカ文学・アメリカ映画・批評理論

（モダニズムの小説。映画ジャンル論）

メッセージ： 文化的教養を身につけつつ、それを批判的に見ていきましょう。

● 長谷川 章（はせがわ あきら）

専門： ロシア文学・映画史・文化論

研究テーマ： ソ連映画・アニメーションの芸術観と現代ロシア文化への影響

研究内容： ソ連は抑圧的な国家でしたが、その後半期の1960年代以降は映画やアニメーションにおいて非常にユニークな作品が数多く作られました。そうした作品は良心の自由を求める人々の隠れ家のような役割も果たしていました。このような当時の映像芸術と社会の関係を考察すると同時に、現在のロシアではかつてのソ連映画がどのように受け取られているか、それが現代ロシア人の自己イメージにどのような影響を与えているかについても研究しています。

メッセージ： 自分が暮らす狭い地域にとらわれず、はるかに広大な世界について学ぶことは、いかにも大学らしいワクワクするような体験だと思いません。私の専門は「近くて遠い国」ロシア。日本ではほとんど知られていない、この地域の文化・芸術は驚くほどの刺激にあふれ、それまでの世界観が一変すること請け合いです。これを読んでいるみなさんが国際文化コースに入ることがあれば、ぜひ一緒に隣国ロシアの魅力（と矛盾）について学びながら、地域と世界を結ぶ方法を探っていきたくと考えています。



ロシア、ペテルブルグでの研修

担当教員紹介（国際文化コース）

● 羽田 朝子（はなだ あさこ）

専門： 中国文学、文化と社会

研究テーマ： 満洲国の中国人女性作家・梅娘の文学

研究内容： 私の現在の研究は、日本の傀儡国家・満洲国で活躍した中国人女性作家である梅娘（メイニャン）の文学を取り上げ、彼女が日本をどのようにとらえ、それを作品化したのかを考察することです。梅娘は戦時体制へと向かいつつある時期の日本に滞在しており、その近代的なモダン文化を享受しつつ、一方で日本が軍国主義へ向かっていくのを目の当たりにします。こうした中で梅娘が抱いた複雑な思いや葛藤を、作品中に描かれた日本イメージから読み解いています。

メッセージ： 中国は最も近い隣国であることから、私たち日本人は古くから深い関わりを持ってきました。しかし近現代の中国となると、皆さんは断片的なイメージしか持っていないのではないのでしょうか。私の授業では、小説や映画といった文学作品を読み解くことで、近現代の中国社会や文化に対して理解を深めます。特に日本との関係にもこだわり、現在の日中間の問題を解決する手がかりを、みなさんとともに模索したいと考えています。



中国・明清時代の古民家群

● Horton William Bradley

専門： コミュニケーション学、歴史

研究テーマ： インドネシア近現代史、第二次世界大戦、医学史、日本・アジア・米国関係史、インドネシアの文学、女性史

研究内容： 20世紀のインドネシア、特に第二次世界大戦についての研究。インドネシアに派遣された日本人女性の現地体験、インドネシアの小説、慰安婦、「ジャカルタの首」に関する調査をしてきました。現在、第二次世界大戦中インドネシアの公衆衛生とマラリア、戦後の日・イ・米関係史、及びインドネシアの図書館の歴史に取り組んでいます。

メッセージ： I'm interested in almost everything-not only Southeast Asia! There are so many things for us to learn together.



● 渡辺 英夫（わたなべ ひでお）

専門： 日本近世史

研究テーマ： 近世北日本社会の研究

研究内容： 北日本社会を中心に、江戸時代の政治や経済の問題を研究しています。佐竹氏支配の秋田藩20万石は、日本史の教科書記述では理解しきれない側面をいくつも有しています。石高の持つ意味も、農村のあり方も特異で、史料の残り方も随分特殊です。こうした秋田藩を基軸に、蝦夷地まで含めた北日本社会を、特に経済の側面から幕藩制国家の全体像に位置づけたいと考えています。高の数量解析、絵図の解説、アーカイブズの問題にも取り組んでいます。

メッセージ： 歴史学は面白いです。



史料撮影の実習風景

担当教員紹介（心理実践コース）

▲ 北島 正人（きたじま まさと）

専門： 臨床心理学（力動臨床心理学）

研究テーマ： 医療心理臨床、心理療法と心理アセスメント、治療構造

研究内容： 精神科医療における心理的な治療をより正確かつ効果的にするために、心理アセスメントを用いて対象者の心理状態、心理構造について評価する方法を研究しています。①自殺の準備状態ともなり得るバーンアウト（燃え尽き）症候群について、教師を対象としたバーンアウト現象の発生プロセスと促進要因の検討、②一般人を対象とした自傷自殺行動の遭遇体験評価、③精神科患者を対象とした自殺リスクと関連する心理指標について研究しています。

メッセージ： 心理学は人の心の仕組みを探求したり修復したりするだけではなく、社会や集団の一員として円滑に過ごす上で重要なピースとして役立つことができます。ここでは心理学の基礎を築きながら、さらに人や社会に応用される心理学についても深く学んでいくことができます。健康な心を養いながら、心理学について我々と一緒に考えていきましょう。



▲ 柴田 健（しばた けん）

専門： 臨床心理学（ブリーフセラピー、家族療法、子どもと親の育ちの支援）

研究テーマ： 効果的な心理療法に関する実践的研究

研究内容： 心理療法が効果的であるとき、セラピストとクライアントの間には何が起きているのでしょうか。また、心理療法が効果的であるためには、セラピストは何をすれば良いのでしょうか。こうした疑問について、ブリーフセラピー（短期療法）や家族療法、トラウマセラピーなどの視点を通して、実践的に研究しています。

メッセージ： やる気スイッチって本当にあるのだろうか？緊張するとどうして心臓がドキドキしてしまうのだろうか？人はどうして怒りを感じるのだろうか？記憶力を上げるためにどうすればいいの？いじめはどうして起きるのだろうか？こころの傷って普通の傷とどのように違うの？カウンセリングって話を聴くだけなの？悩んでいる人を助けるためには何をすればいいの？ そもそも「こころ」って何だろう？

これらはすべて心理学の重要なテーマです。一緒に心理学の世界を楽しんでみませんか？



▲ 宮野 素子（みやの もとこ）

専門： ユング心理学 臨床心理学 精神療法

メッセージ： 目に見える現象から、見ることで見えないひとの心の無限の広がりとお行きへと足を踏み入れる面白さを体感してください。

▲ 心理実践コースでは、上記3名の他に、学校教育課程・子ども発達コースの森和彦・中野良樹、地域社会コースの石沢真貴も指導にあたっています。

会場案内図

3階

2階

各コース《カフェ》
 教員と学生が皆さんの質問に答えます

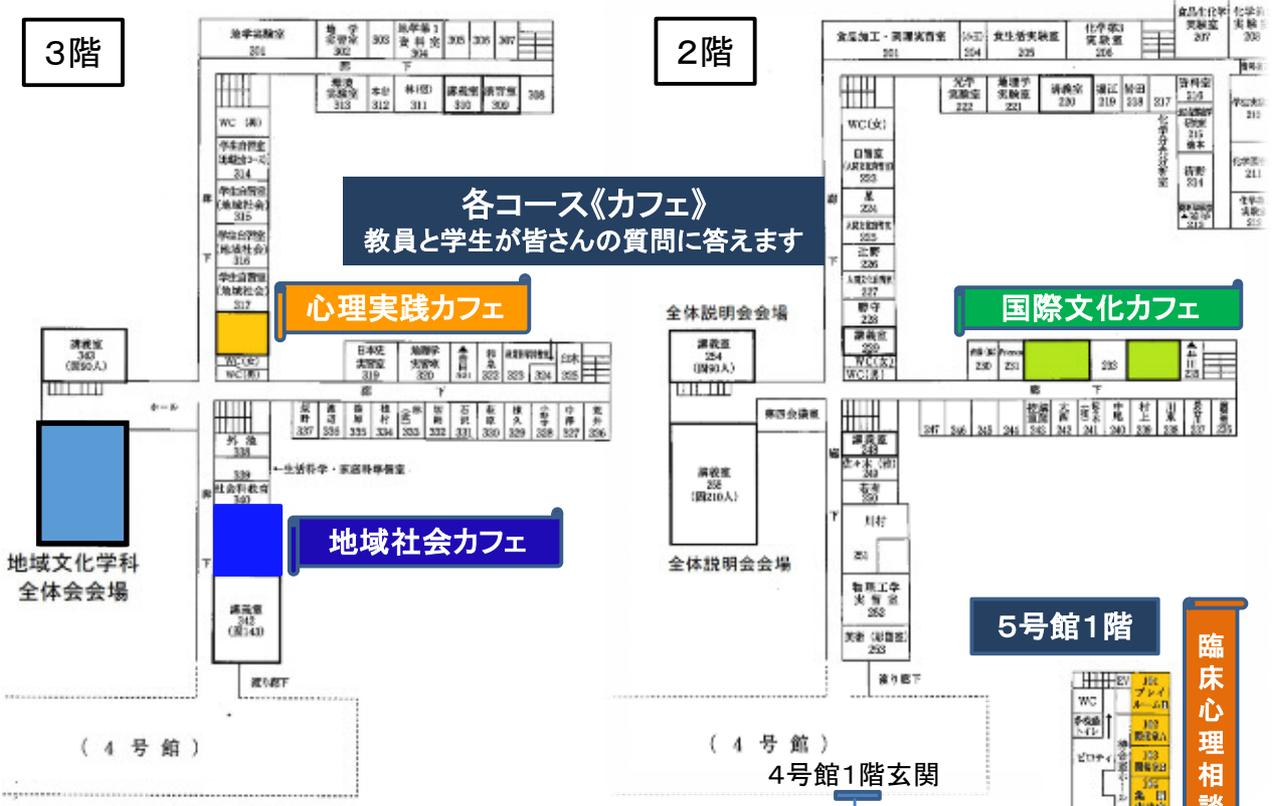
心理実践カフェ

国際文化カフェ

地域社会カフェ

5号館1階

臨床心理相談室



* 4号館1階玄関から外を回っておいで下さい。

2018年7月24日作成
 地域文化学科